

大谷教師塾 教員養成ナビゲーター

大谷大学
教職支援センター

第122号

2019. 1. 25

学校ボランティア活動について

大谷大学 教職支援センター長 教育・心理学科教授 関口敏美

2018年度をふり返ると、本学に初等教育の教職課程を持つ教育・心理学科が開設されてちょうど十年目にあたります。同時にまた、教育・心理学科が教育学部教育学科に改組された節目の年でもあります。

現在の教員養成は、大学が単独で行うものではなく、近隣の教育委員会や学校と共に連携協働して行っています。以前は教育委員会が関わるのは教員採用試験以降でしたが、十数年前から学校ボランティアや学校インターンシップなどの活動が教員養成において重視されるようになりました。

そのきっかけは、2004年に東京都教育委員会が即戦力となる教員を育てるために「東京教師養成塾」を発足させたことです。2006年には京都市教育委員会が「京都教師塾」を開設し、その後、各地の教育委員会も相次いで「〇〇教師塾」を設け、大学と連携協働して教員養成を行うようになりました。

このような動向に対応するため、本学が学校インターンシップを単位化したのは2006年度からです。当時は、受入先の学校から「教育実習と学校インターンシップと学校ボランティアのちがいは？」とよく質問されました。今では学校ボランティアの認知度も高まり、十分に理解されるようになってきました。

学校インターンシップや学校ボランティアという活動は、教育実習以前に子どもと関わることができ、また、教員の仕事の一部を実際に見聞し体験することができるので、教職をめざす学生にとっては、実践的な力を鍛える絶好の機会となっています。

このため、教育・心理学科では、学校ボランティア活動を組み込んだ「初等教育実践論」を開講しました。この科目は1年次から受講できる選択科目で、他大学に比べると、1年生で学校ボランティアを体験できることは、非常にめずらしいとのことでした。

学校ボランティア活動を体験したことで、大学で教職科目を学ぶ意欲が強くなった人が増えた反面、自分が教員に向いていないことを自覚し、進

路変更を決断した人もいます。この意味で、学校ボランティア活動は試金石の役割を果たしています。

そこで、教育学部への改組にあたっては、学校ボランティア活動を体験する「実践体験活動演習」を初等教育コース・幼児教育コース共に必修科目として位置づけました。大学での学びと教育現場での体験が有意義に循環し効果をあげることを期待しているからです。

ただし、授業を必修化したことにより、自発的に行うべき学校ボランティア活動が、強制的に取り組むものとなりました。この結果、今後どのような問題が発生してくるのか、注意深く観察する必要があると考えています。

受入先の意識では、学校ボランティアは、教職をめざす者が自発的に行う活動です。その際、学業優先が原則なので、学校ボランティアを理由に授業を休むことはできませんが、自分勝手に解釈している不心得者もいるようです。宿泊ボランティアや学校支援員を理由にして何度も授業を欠席するのは反則です。

以前、玉川大学でうかがった話ですが、GPAが一定ラインを下回ると、学校ボランティアが活動停止になるそうです。これは、学業にきちんと取り組んだ者が学校ボランティア活動を行うべきだとする考えに基づくものです。

教職課程の質を向上させるためには、そのようなルールも必要です。次の十年に向けて、受入先とのよりよい信頼関係を築くためにも学校ボランティア活動に関するルールを見直すべき時期に来ているように思います。



《こんな先生になります》

() 採用内定自治体

《 児童の声を大切にできる先生に 》

教育・心理学科 新谷 恵史 (滋賀県・小学校)



教育実習で、児童とのコミュニケーションの大切さを学びました。一緒に遊ぶ時間を持ち、授業では、対話を心がけました。少しでも子どもの心に近づこうと意識しました。そのことによって子どもの小さな変化に気付こうとしたのです。

児童の実態を把握し、一人一人が輝ける場づくりをしながら自己肯定感を育てていきたいと考えています。今後、教師としても「聴く」「気付く」を大切にしながら、子どもとの信頼を築く努力をしていきます。

《 感性豊かな子どもたちに 》

教育・心理学科 相良菜々子 (大阪府・小学校)



私は、子どもたちが「楽しい」と思うような学校にしたいと考えています。私は、今までに多くの先生方や仲間と出会ってきました。人との関わりの中で「表情」という要素の必要性を学びました。表情の豊かさが、子どもたちの感性を豊かにすると考えています。学校が楽しい場所と感ずることにも繋がっていると思っています。

楽しくなるような場所にするために、私自身が表情豊かに子どもたちに寄り添える教師になります。常に笑顔を忘れず頑張ります。

《 子どもの思いが解かる先生に 》

教育・心理学科 大吉 萌香 (北九州市・小学校)



私は、児童が居心地の良いと感じる学級づくりをします。お互いに良い点や違いを認め合うことができ、支え合って学級をつくりあげたいと思います。

私は、一人一人の子どもをしっかり観て少しの変化も見逃すことなく、思いをくみ取れる教師を目指します。そのために、素直にありのままの姿で子どもに接し、共に学びを深めていきます。そして、子どもとの信頼関係を築いていきます。

《 『気持ち』を大切にする先生に 》

教育・心理学科 平野 杏奈 (京都市・小学校)



私は、「自分や友達、そして物」を大切にする『気持ちのある学級づくり』を目指します。暖かい気持ちは、心を養い人とのコミュニケーションを深めます。やがて、人と関わることの大切さに気付き、自分の考えも深まります。さらに、相互の刺激から「何かに挑戦」する欲求も生まれ、努力することの大切さも知るので。

私は、一人一人の子どもに寄り添って、それぞれの「気持ち」を大切に共に学んでいける教師になります。

《 児童に自尊感情を育む先生に 》

教育・心理学科 水越 優美（滋賀県・小学校）



私は、教育実習や学校ボランティアで児童が自分に自信を持つことの大切さを感じました。自分の考えを持ちノートにも記述しているのに発表しない児童や、苦手なことに消極的になってしまう児童がいました。間違ふことや失敗することに「恥ずかしさ」を持っているのでしょうか。私は、「間違ふことは恥ずかしいことではなく、チャレンジすることが大切だ」と伝えたい。そして、その頑張る姿を見逃さず、自信を持って行動できるよう支援していきます。

《 学びを最大限に引き出す人に 》

文学部・歴史学科 田村 太一（福井県・中高校 - 社会）



子どもは、成長過程のあらゆる場所で多くのことを経験し学んでいきます。学校では、それらの学びから得た能力を最大限に引き出すことが求められています。

フィンランドの教育現場では、「miksi(なぜ?)」という言葉が頻繁に飛び交うそうです。問いあふことによって、それぞれの考えが深まっていくことを目指しているのだと思います。私も「学びの雰囲気」を創ることが、生徒の「意欲」を高めていくことにつながると考えています。生徒の能力を伸ばす努力を続けていきます。

《 子どもを大切にしている先生に 》

教育・心理学科 高橋 香織（京都市・小学校）



私は、京都市の教師として「一人一人の子どもを徹底的に大切にしている教育」を進めたいと考えています。

私は、教育実習や学校ボランティアで多くの子どもたちに出会いました。一人一人に、長所があり得意があります。同時に、短所があり苦手もあります。それぞれに課題を持って登校し学習しています。私は、児童の実態をしっかり把握し、それぞれの子どもの合った支援の方法を見つけて、粘り強く関わっていきます。

《 何事も全力で行動する先生に 》

教育・心理学科 松尾 和朗（豊能地区・小学校）



私は、得意・不得意を相互に認め合える学級を創りたいと考えています。そして、苦手なことにも前向きに取り組める粘り強さを育てたいと思います。

私の学級づくりは、コミュニケーションの基礎として挨拶を交わすことを定着させたいと考えています。私自身も「褒めること」を中心に、子どもたちとのコミュニケーションをはかります。私は、どんな取組にも全力で行動していきます。

《 児童の可能性を引き出せる先生に 》

教育・心理学科 守野あかり（京都市・小学校）



学校ボランティアや教育実習で、自分に自信がなく消極的な行動をとる子どもがいました。人は、だれでも間違いや失敗をします。それが許されない環境では、意欲をなくし消極的な行動になるのです。私は、「間違ってもいい、一生懸命考えた証」と子どもたちに伝えます。このあと挑戦する意欲を育みたいのです。また、応援され、支えられる環境も挑戦する勇気を与えられます。

私は、学級の環境づくりを通して子どもたちの可能性を引き出していきます。

《 学ぶ楽しさを伝えられる先生に 》

教育・心理学科 足立 夕桂 (兵庫県・小学校)



子どもは、「やってみたい」「出来るようになりたい」という思いを持っています。そんな意欲的な姿勢は、今後の成長の大きな力になります。やがて、「生きる力」に繋がっていくことでしょう。

私は、子どもの「やりたい」を大切にして学ぶ楽しさを伝えられる教師を目指します。私自身の持ち前の元気さと笑顔で、共に喜んだり悩んだりしながら元気で笑顔あふれる学級をつくりたいです。

《 信頼される先生に 》

教育・心理学科 岩田 泰周 (大阪市・小学校)



教室は、児童にとって特別の場と考えています。学校では、ほとんどの時間を教室で過ごします。そこは、児童にとって安心できる場所であればなりません。そのためには、教師と児童との信頼関係が大切になってきます。信頼される教師は、児童に寄り添い何事にも真摯な姿勢で接することが大切です。

私は、常に笑顔を忘れず全力で児童に向き合い、安心できる教室づくりを目指します。そして、共に信頼関係を築き日々成長していきたいと願っています。

《 子どもの変化に気付ける先生に 》

教育・心理学科 東山 侑香 (滋賀県・特別支援学校)

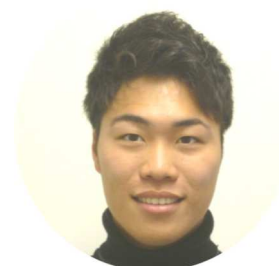


私は、高校一年生の時から特別支援学校の教師を志してきました。その思いは、大学で学校ボランティアや教育実習に参加するごとに強くなりました。

教育実習では、子どもの小さな変化に気付く大切さを学びました。言葉でのコミュニケーションがとりにくい子どもの表情やしぐさなどから、小さな表出を見つけて心情を読み取る努力をしてきました。障がいのある子どもには、自尊心に低い傾向が見られます。私は、子どもたちの良いところを多く見つけて褒め、いつも笑顔で接することができます。教師になります。

《 自分も友だちも大切にできる子どもたちに 》

教育・心理学科 細田 順一 (兵庫県・小学校)



私は、児童が楽しく学校生活を送れる学級をつくりたいです。そのためには、日頃から児童の目線に立ち、気持ちに寄り添うことが必要です。つまずいたり失敗することがあっても、よいところを褒めたり「ここは、頑張ったね」と励ましたりします。相互に共感することを大切にしていくことで、相手の気持ちになって考えられるようになると思います。友だち思いの子どもたちが多くなると、明日も学校に行きたくなると思います。そんな学級を目指して、私は日々努力していきます。

《 子どもの個性を大切に先生に 》

教育・心理学科 福井 香絵 (京都市・総合支援学校)



私は、特別支援学校でボランティアを経験しました。障がいのある子どもたちが、それぞれの課題を持って頑張って学習しています。同じ障がいがあっても、個性は一人一人違います。私は、それぞれの個性を大切に、良いところを伸ばす教育を目指します。

4月からの教師生活には不安もありますが、子どもたちに会えることに楽しみを感じています。まだまだ未熟な私ですが、一つ一つの学びを大切に、一歩ずつ着実に歩んでいきます。

《 学級を子どもが安心できる居場所に 》 教育・心理学科 坂本 憲大（京都市・小学校）



私は、「子どもが安心感を持って活動できる学級づくり」の大切さを感じています。そのために、個々の個性を相互に認め合える学級を目指します。日頃の授業や活動に自分の考えを持って主張できたり、交流を通して相手の良さに気付いたりできる工夫をしていきます。そうすることによって、子どもたちは自分の居場所を感じ安心感を持つのだと考えているのです。私は、しっかり子どもと向き合いながら、個に応じた指導をしています。そして、安心して活動できる学級をつくります。

《 「先生!!」と笑顔で呼ばれる先生に 》 教育・心理学科 羽根田 翼（大阪市・小学校）



4月から憧れの教師になります。子どもは、宝物です。私は、その宝物を守り、磨けるようにします。子どもから、「学校が楽しい」と言われるように努力します。子どもの持つ可能性を引き出し伸ばすために、一人一人をしっかり観察し、良さを見つけます。そして、たくさん褒め自信につなげます。そのために、私も自分磨きに努めます。自信を持って子どもたちに向き合えるように、努力します。子どもたちから、「羽根田先生!!」とたくさん呼んでもらえる先生になります。

《 夢を持つ子どもたちに 》 教育・心理学科 平島 健翔（京都府・小学校）



私は、将来の夢を持てる子どもたちに育てたいと思っています。私は、高校生まで「将来の夢」を明確に持つことができませんでした。広い視野を持って自分の可能性を高めていくことは、子どもたちにとって大事なことだと考えています。それは、将来の夢を持つことから始まります。夢に向かって自分の可能性を日々の学習や学校生活に活かしたら、素晴らしいことです。可能性に向け努力することから、多くの選択肢を持ち自分の将来を考えられる子どもたちを育てます。

《 人との関わりの大切さを教える先生に 》 教育・心理学科 吉川 和希（滋賀県・小学校）



私は、「挨拶」や「思いやり」の心を育てられる教師になります。高校生の時、部活の先生に挨拶や人への思いやりについて熱く指導を受けたことがありました。大学生になって、多くの人と関わる中で部活の先生の指導を思い出しました。「挨拶」や「思いやり」は、人への感謝の心を持つということだと感じています。私もこの「感謝の心」を子どもたちに伝えられる教師を目指します。学級全体が明るく、安心して活動できること、それは人との関わりを大切にすることから生まれます。私は、教師として児童の見本になるよう行動します。

《 子どもの成長に関われる先生に 》 教育・心理学科 浦田 薫子（静岡県・小学校）



私は、小学校の頃から「素敵なお先生たちに出会ってきな」と感じています。どの先生も「私を見てくれている」と感じていたのです。時には「叱り」時には「褒め」、悩んだときには「真っ先に気付き」、力を貸してくださいました。いつも真剣でした。子どもは、とても敏感です。「先生が自分を理解している」と感じたとき、安心感を持ちます。私も「安心」を与えられる教師を目指します。そのためには、児童の日頃の様子を観察し、成長につながる声かけができるように全力で取り組みます。



教職をめざす皆さんへ

教職支援センター アドバイザーから

年度末を控え今、夢を大きく膨らませて歩き出そうとしています。4月から新採教師や講師として教職に進む人、企業や専門職に進む人など様々ですが、一步一步を力強く歩いてほしいと願います。

また、教員採用試験に向けて学習を重ねている3年生の皆さんにもメールを送ります。「6月までの半年間をどう過ごしていくか」が、大きなポイントです。「本気」で行動していきましょう。

教師としての専門性を高める課題と、自らの人間性を育む自分づくりの課題を視野に計画し、力を積み上げていってください。支援センターのアドバイザーは、あなたの夢の実現を願っています。教採に向けての支援を惜しみません。是非、訪ねてください。

教職支援センター 今後の予定

春の面接セミナー(2回講習 要申込み)

2月 8日(金) 60分 面接試験の視点or面接内容、等

3月 6日(水) 120分 個人面接実習(グループ別)

志願書記入説明会(地域別、事前申し込み不要) - 3年生対象 -

3月 7日(木) 大阪地区全域

3月 8日(金) 滋賀県 (いずれか一日)

3月 11日(月) 京都府・市

3月 12日(火) 上記以外の都道府県自治体

- ・ 志願書の内容について
- ・ 志願書の記入について



セミナー・勉強会への積極的な参加を呼び掛けます。
仲間と励まし合い、刺激し合って学習を重ねましょう。